



難治性腹水に対する腹腔-静脈シャント造設後の肝臓および脾臓の容積変化と肝予備能の検討

1998年1月1日から2022年12月31日までに当院にて難治性腹水治療のために腹腔-静脈シャント造設術を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「難治性腹水に対する腹腔-静脈シャント造設後の肝臓および脾臓の容積変化と肝予備能の検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、1998年1月1日から2022年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、難治性腹水治療のために腹腔-静脈シャント造設術を受けた患者さんの肝臓と脾臓の容積を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：難治性腹水に対する腹腔-静脈シャント造設後の肝臓および脾臓の容積変化と肝予備能の検討

研究期間：研究実施許可日～2025年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器外科 吉田寛

(2) 研究の意義、目的について

腹腔-静脈シャント術後の肝不全は致死的な合併症であり予測が重要です。肝臓及び脾臓の容積変化を求めることで容積変化が肝臓の働きに与える影響を血液データを用いて検討し術後肝不全が予測可能かどうか明らかにすることを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

研究方法は1998年1月1日から2022年12月31日までに当院で施行した腹腔-静脈シャント造設術101例を対象とし、術前後に施行した腹部CTから肝臓および脾臓の容積を画像解析ソフトを用いて算出します。画像解析ソフトはフジフィルム社のSynapse Vincentを用いて行います。腹腔-静脈シャント造設前後の腹部CTを用いて実際の容積変化量を算出し血液検査所見に与える影響を検討します。さらに肝臓の著しい機能低下である肝不全との関連を検討します。

本研究は通常行われている腹腔-静脈シャント造設術前後の腹部CT、血液検査所見を用いるため、患者さんに追加で行う医療行為はなく、不利益を被る可能性はありません。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：血液検査所見、腹部CT画像、年齢、性別、等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器外科 病院講師 上田純志

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24212

メールアドレス：junji0821@nms.ac.jp